



社会福祉
法人

一人ひとりに愛と希望を

九十九里ホーム

第 19 号

平成21年11月30日発行

ひとつぶの麦

社会福祉法人

九十九里ホーム

〒289-2147

千葉県匝瑳市飯倉21番地

TEL 0479-72-1131(代)

<http://www.99-home.com>



(聖マーガレットホーム 澤田 明江さん)

**「主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を
を思い出すように…」**

— 新約聖書「使徒言行録 20章」—

聖マーガレットホーム入所者の澤田明江さんがスティックを口にくわえてパソコンで今回描いて下さったのは、サンタクロースの絵です。サンタクロースは聖ニコラスがモデルとされています。彼は4世紀頃、現在のトルコにいたキリスト教会の主教で裕福な家庭に生まれた人でしたが、自分の財産を慈善的な働きのために献げたと言われています。12月6日が聖ニコラスの日です。この日の祈りの中では「私達が他の人々の必要を心に留め、私達が受けとった時に与えるという事も私達に教えて下さい。」と祈ります。クリスマスの時にこのことも思い出していただけたらと思います。

日本聖公会八日市場聖三一教会牧師
九十九里ホーム・チャプレン 司祭 竹内一也

九十九里ホームの歩み<第五回>

障害者福祉事業への展開と 介護保険制度開始に伴う老人福祉事業の拡充

当法人は、昭和53年の松丘園の開設により老人福祉事業への取り組みを開始しました。その後、九十九里ホーム病院内のリハビリテーションセンターの設置、老人保健施設ミス・ヘンテ記念ケアセンターの開設により、医療・福祉サービスを一体的に提供する体制が確立しました。第五回では、障害者福祉事業への取り組みを開始したことと、介護保険制度の開始に伴う老人福祉事業の一層の拡充についてご紹介します。

老人福祉事業に加え、障害者福祉事業への取り組みを開始

昭和58年より九十九里ホーム病院内のリハビリテーションセンターにて、リハビリテーションを開始しましたが、治療を受けられる利用者の方の中には、高齢者の方に加え比較的年齢の若い方も多くいらっしゃいました。高齢者の方は、リハビリテーション治療後、自宅へ戻られたり、老人保健施設や特別養護老人ホームへ入所されましたが、年齢の若い方で自宅に戻れない方は、その当時の身体障害者療護施設へ入所されることが一般的でした。しかし、当時、千葉県ではこの施設が大変不足しており、入所できない障害者の方が多数いらっしゃいました。そこで、当法人では、この方たちが安心して入所できる施設が必要であると考え、当法人内に身体障害者療護施設を開設することを決定しました。しかし、この障害者施設の建設には、多くの困難がありました。ミス・ヘンテ記念ケアセンターの開設までは、旧八日市場市の委託事業である瑞穂園を除き、当法人の敷地内での建設でしたが、障害者施設は初めて当法人の敷地外へ建設することになりました。当法人の敷地に近くてまとまった土地を探しましたが適当なものがなく、農地として使用されていた土地に建設することになりました。

土地の所有者の農家を一軒一軒何度も尋ね、当法人の考えを丁寧にお話しし、所有者皆様のご理解を得ることに腐心いたしました。農家のお宅を訪問するうちに、次第に皆様のご理解を得ることができるようになりましたが、更に大きな問題が待ち構えていました。建設予定の土地は、農業振興地域に指定されており、まずこの指定が解除されなければ、障害者施設用地として利用することはできませんでした。この解除に向け行政当局と何度となく折衝を重ね、最終的に何とか解除の決定までこぎつけることができました。その上で、農地転用の手続きを経て、最終的に全ての土地所有者の方のご理解を得て購入し、障害者施設の建設に取り掛かることができました。現在では、近隣の方々とも親しくお付き合いさせていただいており、毎年開催している夏祭りには多くの住民の方々に来ていただいたりしています。また、資金面でも土地の購入から建設の費用まで含め多額の借入れをしなければ



聖マーガレットホーム入所者の日中活動
(玉ねぎの袋詰め作業)

ならず、それまでにはない困難さを経験しましたが、平成7年3月、当法人の創立者であるA.M.ヘンテ女史のクリスチャンネームから、聖マーガレットホームと命名し、80床の身体障害者療護施設として運営を開始することができました。現在では、施設種別は障害者支援施設となり、デイサービス事業や障害者相談支援事業（匝瑳市委託事業）等も併せて行っています。

近隣自治体の協力による老人福祉事業の拡充

当法人は、病院、老人保健施設、特別養護老人ホームという医療、福祉サービスの一体的提供を順調に進めていきましたが、その当時近隣の自治体では、高齢者への福祉サービスが十分には整備されていませんでした。そんな折、旧光町より行政として全面的に協力する



開設当時の第二松丘園

ので、特別養護老人ホームを建設し、運営してもらえないかとの相談がありました。旧光町所有地の無償貸与、建設資金の援助等が主な内容で、当法人としても、行政の協力のもと特別養護老人ホームを運営できれば、地域の福祉ニーズにも、より一層スムーズに答えることができると考え、この申し出を喜んでお受けしました。最終的に旧光町、横芝町、野栄町の三町に加え、国、千葉県、当時の新東京国際空港公団の補助金を受け、当法人としては二つ目となる特別養護老人ホームを栗山川沿いの土地に建設し、平成9年4月、入所50名、短期入所20名で、デイサービスセンター、在宅介護支援センターを併設した第二松丘園としてオープンしました。隣接する東陽病院が、協力医療機関としてオープン当時より支援していただいております。現在も大変お世話になっております。

また、旧山田町でも、高齢者福祉サービスの整備が急務となっていました。第二松丘園の運営が順調に進んでいることが旧山田町より評価され、町所有地の無償貸与、資金面の援助を内容とした高齢者福祉施設の建設依頼が当法人にありました。これも大変ありがたい話で、当法人としてお引き受けすることにしました。将来特別養護老人ホームを建設することを前提として、旧山倉中学校跡地にデイサービスセンターと在宅介護支援センターを設置することとなり、国、千葉県の補助金も受け建設し、平成11年10月に、九十九里ホーム山田デイサービスセンター、九十九里ホーム山田在宅介護支援センターとして開設しました。

介護保険制度開始に伴い、介護サービスと病院の療養環境のより一層の充実を目指して

平成12年4月に、高齢者介護を社会全体で支えることを目的とした介護保険制度がスタートしました。介護保険制度以前の高齢者福祉は、行政による「措置制度」として行われていましたが、それ以降は公的な介護保険に基づく「介護サービス」という位置づけになりました。当法人は、昭和53年の松丘園開設以来、高齢者福祉事業の充実を目指してきましたが、これらの事業を介護保険制度に適応するように転換しました。

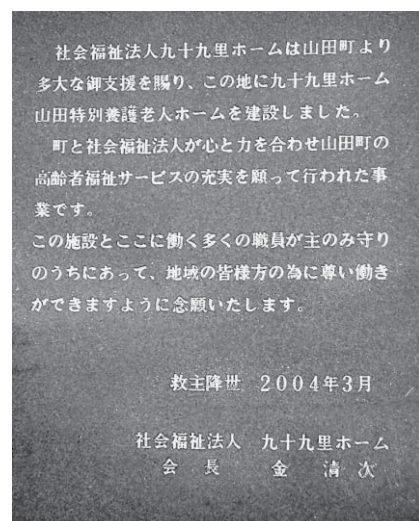
介護保険制度は始まったとはいえ、入所希望者に比べ特別養護老人ホーム等の施設数は十分とはいえず、入所を待って自宅で待機されている方が多くいらっしゃいました。そこで、これらの方々に在宅にて安心して生活していただくことが重要であると考え、当法人にて、介護保険制度に基づく在宅サービスを充実させていくことにしました。松丘園、第二松丘園、九十九里ホーム山田デイサービスセンターの法人内三か所に、それぞれヘルパーステーションと居宅介護支援事業所を開設しました。また、要介護者の方が自宅にて医療、看護サービスを受けられるように、平成13年11月に九十九里ホーム訪問看護ステーションを開設し、訪問看護と訪問リハビリテーションサービスを開始しました。これらの在宅サービスと施設との連携によって、利用者の方が施設への入所を希望される場合には、よりスムーズに入所へと結びつけられるようになりました。今後とも、施設サービスと在宅サービスのバランスを取り、より充実した介護サービスを提供することが必要であると考えております。

九十九里ホーム病院の病棟は、昭和56、57年度に木造から鉄筋コンクリート造りに全て建て替えられましたが、より一層の患者サービスの向上と療養環境の充実をはかるため、国の医療施設近代化施設整備事業補助金を活用して、新病棟の建設と旧病棟の改築に着手しました。平成13年3月、一般病床66床、療養病床83床、計149床の病棟が完成しました。新病棟は、患者さん一人当たりの面積や廊下の面積を広く取っており、患者さんにゆったりと療養していただけるようにしました。反面、他の病院に比べ面積を広く取ったため、病棟の維持管理費の面で苦心しております。

また、旧山田町においては、九十九里ホーム山田デイサービスセンターを始めとした在宅サービス事業を既に開始していましたが、当初の予定どおり同一敷地内に特別養護老人ホームの建設を始め、平成16年4月、入所70床、短期入所10床の九十九里ホーム山田特別養護老人ホームが完成し、運営を開始しました。この頃より特別養護老人ホームの入所者一人当たりの面積を更に広く取るようになり、九十九里ホーム山田特別養護老人ホームも、松丘園や第二松丘園に比べゆったりとした面積を確保しました。当時の山田町町長の高岡顯尚様より、「協心」と書かれた銘盤をいただき、玄関付近に設置いたしました。この「協心」という言葉は、旧山田町と当法人が心と力を合わせて地域の高齢者福祉ニーズに答えることを意味したものです。近隣の自治体からいただいた信頼は、当法人が昭和10年に結核患者の保養所として事業を開始して以来、地道に地域の医療、福祉ニーズに答えるべく努力してきたことが評価されたものと考え、この努力の重要性を再認識しました。



旧山田町高岡町長よりいただいた「協心」の銘盤





日中活動の収益金で 花火大会を実施

障害者支援施設聖マーガレットホーム

日中活動で得た収益金を活用した花火大会が、9月7日（月）午後6時30分より、聖マーガレットホーム駐車場において開催されました。

日中活動は、平成20年度に当施設が障害者自立支援法に移行したことをきっかけに始まった活動です。「利用者の方の能力を最大限発揮し、生きる喜びを感じてほしい。」との意図に基づき、野菜班、花班、空き缶リサイクル班、シャーレ班、施設で使うお絞りを用意するおしぼり班に分かれ、それぞれが作業を行っています。野菜班は、仕入れた野菜を2～3個ずつ袋詰めにし、九十九里ホーム病院で月に1回の販売を行っています。花班は、種をまき育てた苗を九十九里ホーム病院や当施設の行事で販売しています。空き缶リサイクル班は、近隣の方や家族にも声を掛け集めた空き缶を、アルミとスチールに選別し、つぶして業者へ売却しています。シャーレ班は、業者から委託されたシャーレの不良品を取り除き、重ねて段ボールに入れて業者に納品しています。いずれも月曜日から金曜日までの午前中を中心とした活動です。短い時間で作業は簡単には進まないことが多いのですが、それでも続けていく中で、責任感ややりがい、仲間としての意識、地域の方との交流、仕事の厳しさなどいろいろなことを利用者は学んでいます。また社会の一員としての役割や生きている実感を得ることもできるようになりました。

収益金は作業時に必要な物品の購入やおやつ代金として活用していましたが、みんなで楽しめることを企画したのがこの花火大会です。これは利用者の考えで始まったもので、今回は昨年に続き2回目の開催となりました。独歩の方、車椅子の方、ベッド上の方など、参加の仕方は様々ですが、ほぼ全員の利用者が、夏の夜空に広がる花火に歓声を上げこの企画を楽しんでいました。今後、収益金は社会的に意義のある使い方にしていきたいと思っています。

日中活動は始まったばかりで、いろいろな課題はありますが、施設の利用者が、社会の一員としてその役割を果たし、生きがいを持って生活していくための支援をこれからも引き続き行っていきたいと思っています。



大迫力のナイアガラ花火

「ボランティア感謝の集い」を開催

～私にも出来たよボランティア～

7月18日、平成21年度「ボランティア感謝の集い」が成田ビューホテルにて開催されました。今年は、各施設のボランティアの方々に、日頃の活動を通じ、感じている事やボランティア活動への思いを発表して頂きましたので、いくつかをご紹介します。

・小安代志子さん（ミス・ヘンテ記念ケアセンター）

音楽クラブで歌の指導とピアノ伴奏を中心にコーラスメンバーと共に活動しています。ケアセンターとの出会いのきっかけは、祖母の入所でした。心温まる人との出会いや繋がりにより、「1回きりのはずだったボランティア」がこんなに長く続くとは思っていませんでした。

・布施のり子さん（第二松丘園）

園芸活動を行いながらの関わりです。「おもしろく生きる為の社会参加」であるボランティアは自分を守り、自分を高める為の活動です。日常の生活が、社会生活との関わりの中で自分を磨き、社会の為に役に立つ行動に連なるものと考え、招かれる人に

なりたいと思っています。

・御簾納たか子さん（日向の里）

音楽活動を中心に活動しております。音楽との出会い、日向の里との出会いを大切に、自分自身の経験から感じた「歌は心の支えなり」を伝えられる人でありたいと願っております。

ボランティアの方々の発表は意義深いものが多く、会場は大いに盛り上がりパワーを頂きました。当法人の各施設は、多くのボランティアの皆様に、支えられています。感謝すると共に、今後とも交流を図ってまいりたいと思います。



発表されるボランティアの方

「下富谷音頭」が誕生 ～養護老人ホーム瑞穂園～

当施設がある匝瑳市下富谷地区に「下富谷音頭」が誕生しました。作詞、作曲は下富谷地区在住の林修さん、振付は松栄流家元松栄崇寿先生。歌手は地区の歌自慢鈴木農夫一さ

んと市原美智代さん。まさに住民の方が協力して出来た手づくり音頭です。踊りの練習は、当施設の大広間にて、地区の方々と当施設職員、入所者が一緒になって、楽しく行っています。

下富谷地区と当施設の絆は強く、毎年恒例の当施設の夏祭りには地区の皆様をご招待し、また、地区のボランティア団体「城友会」のメンバーには、祭りのお手伝いをお願いしており、夏祭りは、地区と施設が一体となったものになっています。特に、今年は下富谷音頭が加わり、より一層盛り上がりました。

下富谷音頭で盛り上がる
瑞穂園の夏祭り



せっかく出来た下富谷音頭を多くの方に、愛され親しまれて歌い踊りついでもらいたいと、下富谷地区では「下富谷音頭普及委員会」を設けました。今年は普及の一環として、10月10日に第1回の「ヨイトコ下富谷まつり」を開催しました。下富谷地区には、今まで地

区全体の方が楽しめるお祭りがなかったので、下富谷音頭が出来たのをきっかけにして、老若男女が楽しめるお祭りにしたいと、地区の皆様が、張切って開催にこぎつけました。当施設も、「ヨイトコ下富谷まつり」に参加させていただき、尚一層交流の輪を広げました。

「W i i」でTV放映！！

～九十九里ホームデイサービスセンター～

「W i i」でボーリングを楽しむ利用者の方々



九十九里ホームデイサービスセンターでは、アクティビティの一環としてゲーム機の「W i i」を使用していますが、この様子が日本テレビを始めとした同局の系列局にて放映（日本テレビは6月21日（日）5：25～）されました。この番組は24時間テレビの一環で、新しいケアやリハビリを紹介する番組です。

当センターが、「W i i」をはじめたきっかけは、自宅で使用していた職員が、このゲー

ムをデイサービスに取り入れることができないかと提案したのがきっかけでした。ゲームに馴染みのない高齢者が受け入れてくれるかなど不安もありましたが、適度に体を動かすことによりリハビリ効果も望めるのではないだろうかとの期待感もあり実施してみることにしました。今では、多くの利用者の方がボーリングや野球のゲームを楽しんでおられます。

理学療法士の観察の結果、「W i i」には以下のようなリハビリ効果が期待されます。

- ①目と上肢（腕、手指）の協調性
*立位で行う場合は下肢も伴う
- ②体幹の維持
- ③気分転換

今後はより多くの利用者によりリハビリ効果等でよい結果が見出されるように継続して行きたいと思います。また、ソフトの種類も増やしていく予定です。

90歳のフラガール

本年7月8日、山武市の「のぎくプラザ」においてフラダンスの発表会があり、総勢20名の発表者の中に、当園の入所者も参加いたしました。当園では、平成8年より月に一度、ボランティアの高田直子先生にフラダンスのご指導をいただいています。生活の中での楽しみと体力の維持のため約10名の方が参加されています。発表会に参加される方は年々減ってきてはいますが、今年は3名の入所者と職員2名、長嶋元園長の計6名で舞台上に立ちました。入所者の方は皆さん90歳で、3名の「90歳のフラガール（ボーイ）」が舞

～養護老人ホーム瑞穂園～

台の上で熱演されました。会場の皆様も応援してくださり、「アンコール」の掛け声と盛大な拍手をいただきました。

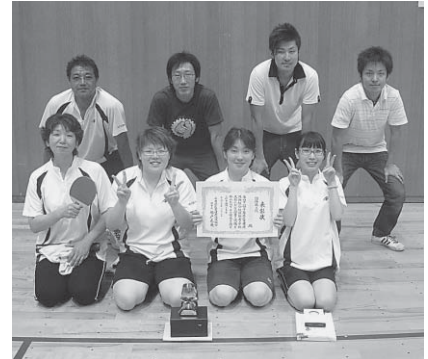


恋の季節の曲に合わせての熱演

卓球同好会惜しくも優勝を逸す

本年8月2日に八千代市市民体育館にて第48回千葉県医業健康保険組合被保険者卓球大会が行われました。我が九十九里ホーム病院チームは、団体戦では長年好成績を挙げていましたが、ここ3年は優勝まで手が届かず、惜しくも2位・3位と言う結果に終わっています。団体戦はチームワークが必要だと思います。一人でも選手が欠けてしまうとバランスが崩れ、思った通りのプレーが出来ない事があります。しかし当日いる選手で励まし合いながら、勝ち取った勝利も良い物です。一

人一人カバーしながら行うことの大切さも卓球を通して感じる事が出来ました。今後の課題は「他人に厳しく、自分に厳しく」を念頭に置き、仕事も卓球も楽しんでいきたいと思っています。



ローリングバレーボール「九十九ファミリー」準優勝！

当法人のリハスタッフを中心となって結成したローリングバレーボールチーム「九十九ファミリー」が本年6月27日(土)に行われた神奈川交流大会において、Bブロックで見事準優勝を果たしました。今回は2名の新メンバーも参加し、声を掛け合いながら全員一丸

となったの準優勝でした。

参加したメンバーの一人から、「先日、『スタート』というテーマの24時間テレビを見ました。今まで、障害を負った自分に引け目を感じたり、多く悩んだ時期もありましたが、大会で頑張っていた人たちやテレビに映る障害者が自分と重なり、第二の人生を歩むスタートをきろうと前向きな気持ちになりました。」との力強い感想が寄せられました。

千葉県ではまだチーム数が少ないのが現状です。今後もっと輪を広げて千葉県で大会を開催できることが九十九ファミリーみんなの夢です。今後とも応援よろしくをお願いします。



「のさかフロンティア学寮2009」にて福祉用具体験指導

匝瑳市では、青少年相談員事業の一環として小学生を対象とした通学合宿「のさかフロンティア学寮」を行っています。この合宿にて、当法人のリハスタッフは、近年問題となっている家庭内での高齢者介護や学校生活における怪我等への疑似体験として福祉用具体験の指導にあたりました。生徒達は、ボランティアの方の協力も得ながら、障害者体験スーツの着用や自助具の使用、松葉杖や車椅子の体験などを和やかな中にも一生懸命取り組んでいました。生徒からは、「お年寄りや障害者の方は、こんなにも体が重く、動きづらいん

だ」「手伝いたい」などの感想が聞かれました。

今後も、お年寄りや障害者の方をいたわる気持ちを育てていけるよう、地域の取り組みに協力していきたいと思っています。



車椅子を体験する生徒たち

助成事業の報告

日本船舶振興会(日本財団)より 軽トラックの寄贈 聖マーガレットホーム

日本船舶振興会の助成により、軽トラックを購入しました。利用者の方の日中活動に活用させていただきます。ありがとうございます。



千葉県の補助金により 車両を購入 聖マーガレットホーム

障害者相談事業立ち上げに伴い、千葉県の補助金を活用してフィットを購入しました。地域の皆様への訪問活動に活用させていただきます。



大川勝美様より 大型掛け時計の寄贈

特別養護老人ホーム松丘園

八日市場ロータリークラブ会員で匝瑳市在住の大川勝美様より、大型掛け時計を寄贈していただきました。デイサービスセンターに設置して、活用させていただいています。ありがとうございます。

来園されたご長男の
大川照彦様



NHK 歳末たすけあい及び 家族の会より寄贈

聖マーガレットホーム

NHK 歳末たすけあいの受配品として、千葉県共同募金会を通じて全自動洗濯機1台、大型クリーナー2台、電子ミシン1台を寄贈していただきました。



また、聖マーガレットホーム家族の会より、50型の大型液晶テレビを寄贈していただきました。大切に扱い有効に活用させていただきます。ありがとうございます。



千葉県共同募金会、香取市社協、 佐原法人会より寄贈

九十九里ホーム山田特別養護老人ホーム

本年6月に千葉県共同募金会より、新しい福祉車両(ニッサン・セレナ)を寄贈していただ



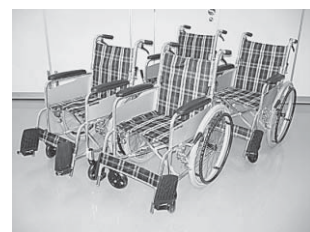
きました。安全運転を心掛け、利用者の送迎に有効に活用させていただきます。

また、香取市社会福祉協議会山田支所、

山田アルミ缶リサイクルの会より、フルリクライニング型車椅子を寄贈していただきました。利用者の方々に有効に活用させていただきます。アルミ缶回収事業に取り組んでいる山田区内の5つの小学校を代表して、香取市立八都小学校にて、本年2月18日贈呈式が行われました。当施設でも、今後もアルミ缶回収に、協力させていただきます。

本年2月20日には、佐原法人会様より、ウクレレ演奏やご利用者様へのメイク教室開催の後、車椅子を4台寄贈していただきました。大切に活用させていただきます。

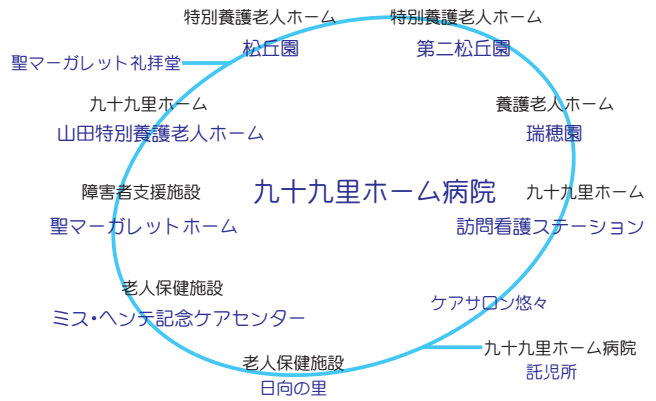
以上の皆様ありがとうございました。





法人本部全景

九十九里ホームネットワーク



— 特定健康診査・特定保健指導をお受けになりませんか —

平成20年度から「高齢者の医療の確保に関する法律」により、健保組合・全国健康保険協会（協会けんぽ）・共済組合等（被用者保険の家族等）の加入者のうち、40歳以上75歳未満の方を対象に特定健康診査・特定保健指導が実施されています。九十九里ホーム病院で特定健康診査・特定保健指導を受けてみませんか？

※加入保険により、実施可能な医療機関が異なります。詳細については、ご自身が加入している健康保険の担当者にお問い合わせください。

特定健康診査とは？

特定健康診査は、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した健診で、以下の項目を実施します。

<p>基本的な 項目</p>	<p>○質問表(服薬歴、喫煙歴等) ○身体計測(身長、体重、BMI、腹囲) ○血圧測定 ○理学的検査(身体診察) ○検尿(尿糖、尿蛋白) ○血液検査 ・脂質検査(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール) ・血糖検査(空腹時採血またはHbA1c) ・肝機能検査(GOT、GPT、γ-GTP)</p>
<p>詳細な 健診の 項目</p>	<p>※一定の基準の下、医師が必要と認めた場合に実施 ○心電図 ○眼底検査 ○貧血検査(赤血球、血色素量、ヘマトクリット値)</p>

特定保健指導とは？

特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して、生活習慣を見直すサポートをします。特定保健指導には、リスクの程度に応じて、動機付け支援と積極的支援があります。

< 特定健診の予約・お問い合わせ先 >

九十九里ホーム病院 外来受付
TEL 0479-72-1131 (代表)